

J R 四国松山駅新駅舎 2 階待合室「台湾交流ギャラリー」の整備について

2024年9月27日

四国旅客鉄道株式会社と国営台湾鉄道株式会社は、2013年に日台松山駅が同名駅であるご縁から友好駅協定を締結して以来、様々な相互交流を実施してきました。

今回、松山駅が新駅舎となる機会に合わせて、駅待合室の一部を「台湾交流ギャラリー」として整備いたしました。

このギャラリーでは、J R 四国と台湾鉄道の歩みをご紹介する他、台湾鉄道および台湾に関する情報を発信し、駅をご利用のお客様に興味、関心を持っていただく事で、日台の更なる交流促進を期待するものです。

1 名称

台湾交流ギャラリー

2 場所

J R 四国松山駅新駅舎 2 階待合室南側

3 開設日

2024年9月29日（日）

4 設備等

別紙参照

5 その他

台湾鉄道松山駅には、2016年から「台鐵×J R 四国 交流館」が常設されています。

【名称】台湾交流ギャラリー

【場所】松山駅新駅舎2階待合室南側（常設）

【目的】

JR四国と台湾鉄路の交流の歴史を紹介すると共に、パンフレットや動画で台湾観光情報を発信する場として待合室の一部を整備する。デザイン面では、台湾旧鉄道管理局（現鉄道博物館）などレンガ造りの歴史的町並みをイメージしたレンガ模様の壁面と、カラーをマッチさせたベンチを採用している。

【設備】

① 壁面キャビネット

⇒キャビネットに過去台湾鉄路等との交流で入手した記念品や協定書等を展示

② 壁面ディスプレイ

⇒65インチ映像端末

台湾鉄路および台湾観光協会等から提供いただいた観光プロモーション動画を放映

③ パンフレットラック

⇒26口（A4サイズ）のパンフレットラック

松山市や台湾観光協会から提供いただいた台湾関係のパンフレットを掲出

④ 壁面展示

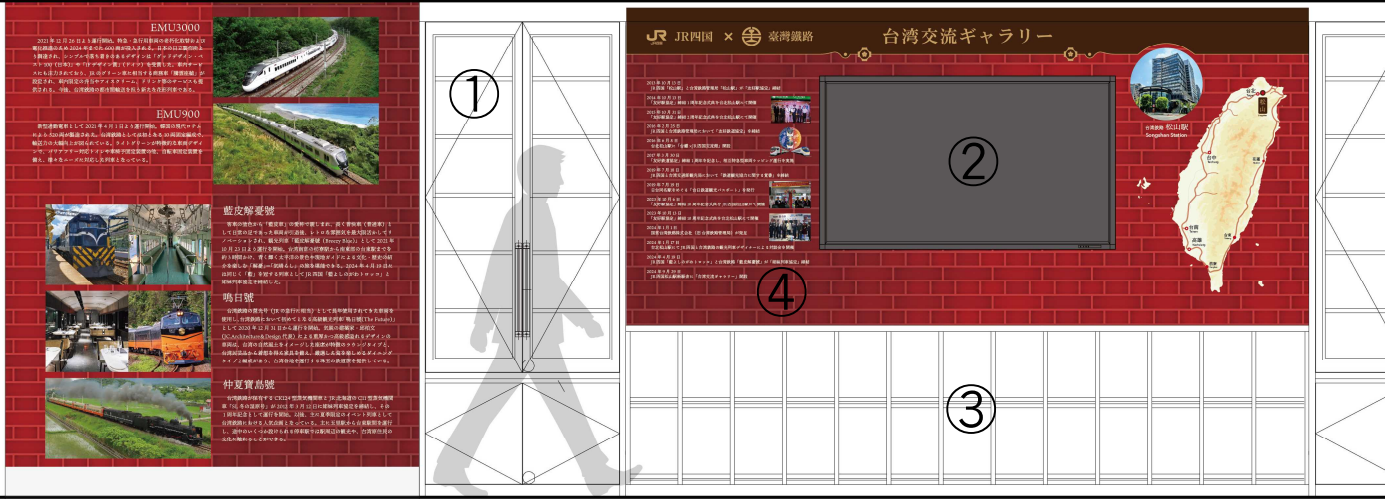
⇒壁面に台湾鉄路等とJR四国の交流の歴史年表を紹介

台湾鉄路の車両を画像と共に紹介

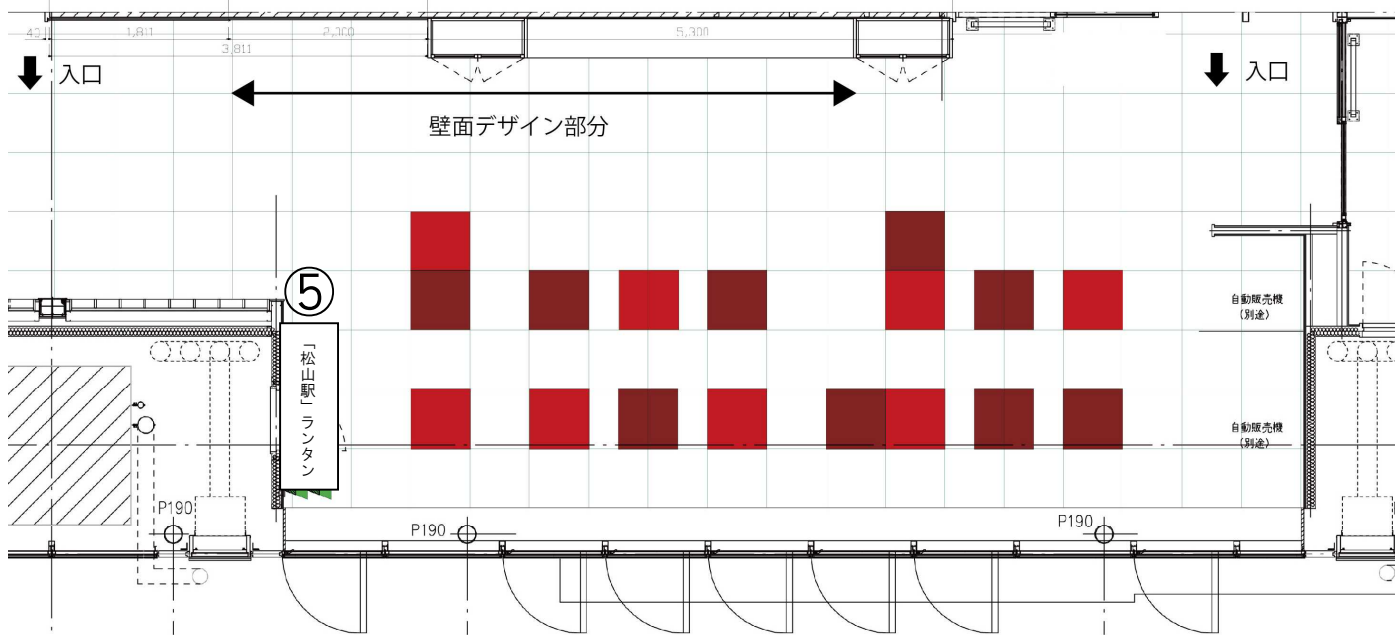
⑤ 2024台湾ランタンフェスティバル「松山駅」ランタン

⇒2024年台湾ランタンフェスティバルで使用された「松山駅」駅名標ランタンを台湾観光協会より寄贈いただき展示

松山新駅 「台湾交流ギャラリー」 概要



最終デザイン（壁面デザイン）



ベンチレイアウト

2013年10月13日
JR四国「松山駅」と台湾鐵路管理局「松山駅」が「友好駅協定」締結

2014年10月13日
「友好駅協定」締結1周年記念式典を台北松山駅にて開催



2015年10月31日
「友好駅協定」締結2周年記念式典を台北松山駅にて開催

2016年2月25日
JR四国と台湾鐵路管理局において「友好鉄道協定」を締結

2016年6月8日
台北松山駅に「台鐵×JR四国交流館」開設



2017年3月30日
「友好鉄道協定」締結1周年を記念し、相互特急型車両ラッピング運行を実施

2019年7月18日
JR四国と台湾交通部觀光局において「鉄道観光協力に関する覚書」を締結

2019年7月19日
日台同名駅をめぐる「台日鉄道観光パスポート」を発行



2023年10月6日
「友好駅協定」締結10周年記念式典をJR四国松山駅にて開催

2023年10月13日
「友好駅協定」締結10周年記念式典を台北松山駅にて開催

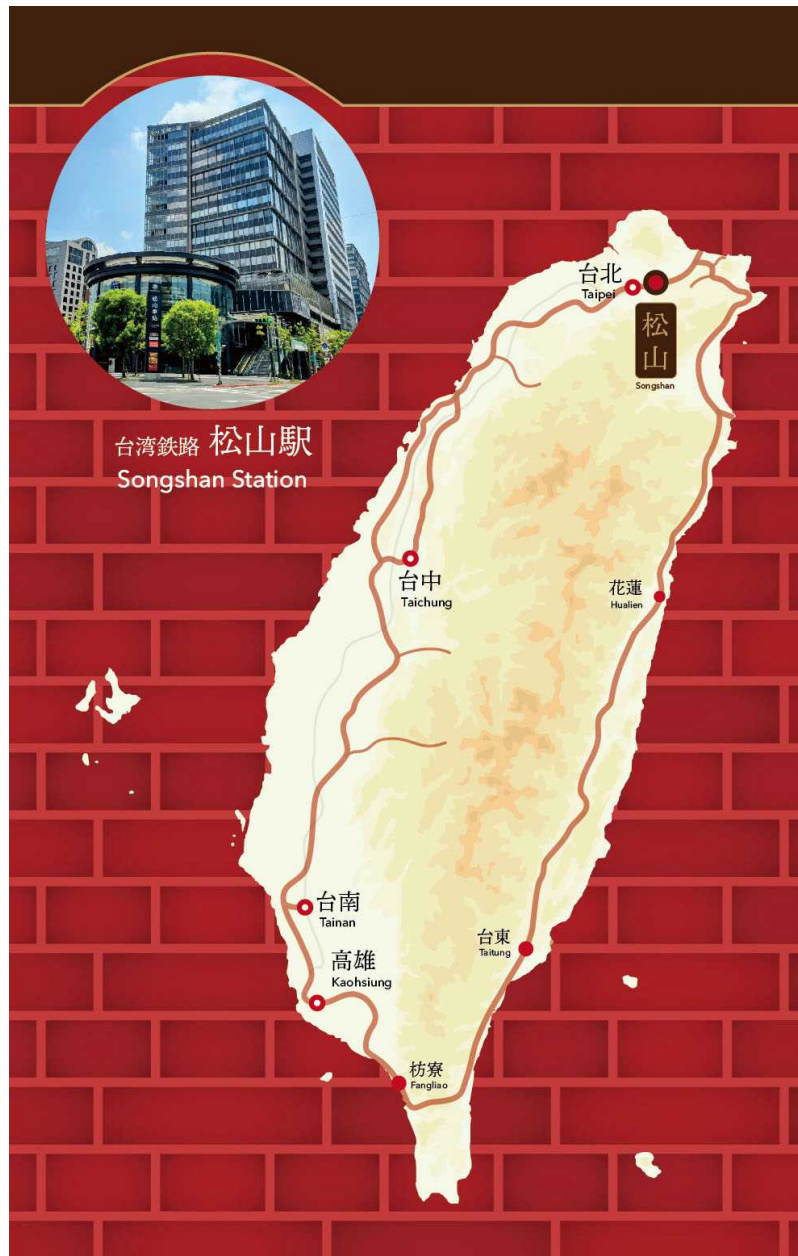


2024年1月1日
国営台湾鐵路株式会社(旧台湾鐵路管理局)が発足

2024年1月17日
台北松山駅にてJR四国と台湾鐵路の観光列車デザイナーによる対談会を開催

2024年4月19日
JR四国「藍よしのがわトロッコ」と台湾鐵路「藍皮解憂號」が「姉妹列車協定」締結

2024年9月29日
JR四国松山駅新駅舎に「台湾交流ギャラリー」開設



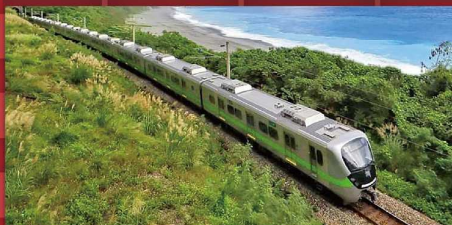
EMU3000

2021年12月26日より運行開始。特急・急行用車両の老朽化取替および電化推進のため2024年までに600両が投入される。日本の日立製作所より調達され、シンプルで落ち着いたデザインは「グッドデザイン・ベスト100」(日本)や「iFデザイン賞」(ドイツ)を受賞した。車内サービスにも注力されており、JRのグリーン車に相当する商務車「騰雲座席」が設定され、車内限定の弁当やアイスクリーム、ドリンク等のサービスも提供される。今後、台湾鉄路の都市間輸送を担う新たな花形列車である。



EMU900

新型通勤電車として2021年4月1日より運行開始。韓国の現代ロテムにより520両が製造された。台湾鉄路としては初となる10両固定編成で、輸送力の大幅向上が図られている。ライトグリーンが特徴的な車両デザインで、バリアフリー対応トイレや車椅子固定装置の他、自転車固定装置を備え、様々なニーズに対応した列車となっている。



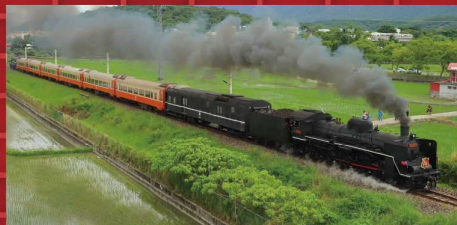
藍皮解憂號

日常の足である普快車(普通車)として台湾全土で運行し、塗色から「藍皮車」として長年親しまれた日本製・インド製の旧型客車を、レトロな雰囲気を最大限活かしてリノベーションした観光列車「藍皮解憂號(Breezy Blue)」として2021年10月23日より運行を開始。台湾南部の枋寮駅から南東部の台東駅までを約3時間かけ、青く細く太平洋の景色や現地ガイドによる文化・歴史の紹介を楽しむ「解憂」=「気晴らし」の旅を堪能できる。2024年4月19日には同じく「藍」を冠する列車としてJR四国「藍よしのがわトロッコ」と姉妹列車協定を締結した。



鳴日號

台湾鉄路の莒光号(JRの急行に相当)として長年使用されてきた車両を使用し、台湾鉄路において初めてとなる高級観光列車「鳴日號(The Future)」として2020年12月31日から運行を開始。気鋭の建築家・邱柏文(JC.Architecture & Design 代表)による重厚かつ高級感溢れるデザインの車両は、台湾の自然風土をイメージした座席が特徴のラウンジタイプと、台湾民芸品から着想を得た家具を備え、厳選した食を楽しむダイニングタイプ2編成があり、台湾各地を運行する珠玉の鉄道旅を提供している。



仲夏寶島號

台湾鉄路が保有するCK124型蒸気機関車とJR北海道のC11型蒸気機関車「SL冬の湿原号」が2012年3月12日に姉妹列車協定を締結し、その1周年記念として運行を開始。以後、主に夏季限定のイベント列車として台湾鉄路における人気企画となっている。主に玉里駅から台東駅間を運行し、途中のいくつか設けられる停車駅では駅周辺の観光や、台湾原住民の文化に触れることができる。

2024台湾ランタンフェスティバル 「松山駅」ランタン



台湾では元宵節(旧暦1月15日)を祝うイベントとして、毎年趣向を凝らした様々なランタンが彩るランタンフェスティバルが開催されます。2024年台南市で開催された第35回ランタンフェスティバルでは、日本と台湾にある32の同名駅名標のランタンが展示されました。

日台同名駅であり友好駅協定を締結している「松山駅」ランタンを台湾観光庁より寄贈いただき展示しています。

